

令和3年度（2021年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新人教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語4技能の修得と国際理解を深める指導の工夫。
- 2、ICT教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT機材を用いた授業研究の推進
 - (2) ALを取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）で10項目のアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

中学は普通教科および実習教科とも昨年とほぼ同様の評価となった。一昨年、コロナ禍で実技を制限し講義を増やしたため下がったと考えられた評価が、昨年度、今年度と様々な感染防止に取り組み、実技を増やした授業展開が評価の回復につながっていると考えられる。高校については普通教科・実習教科ともに全ての項目でほぼ昨年と同様に、高い値であった。きめ細かい指導に対し評価されていると考える。

しかしクラス担任については、中学、高校ともに評価が下がった。特に高校では10項目の平均で0.18低下し、全ての項目で中学より低い評価となった。特に「クラス運営（管理）に満足している」の項目は顕著に評価が低下し生徒の満足感が薄らいでいる事が分かった。ついで「一人ひとりに公平に接している」「生徒の意見や要望を取り入れ、クラス運営に生かしている」の評価の低下大きい。クラスの運営にあたり個々の生徒にきめ細かく対応し、充実し満足してもらえる取り組みを実施していくなど重点課題として取り組む必要がある。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

学校運営15項目・教育内容16項目・生徒指導支援6項目・教員研修資質向上5項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の4段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～Dの頻度を回答合計数に対する割合(%)で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

評価の高い項目は教育課程の「教育計画について」「学習指導要領の対応状況」、生徒支援の「カウンセリング体制」、教育内容・その他の「読書推進」「国際理解」「学校行事」があげられる。逆に評価の低い項目は教員研修の「新任者のサポート状況」「校外研修」、財務関係、開かれた学校づくりの「地域交流」があげられる。

評価の推移を見ると、昨年度は42項目中19項目で前年度より評価が高くなったが、今年度は評価が前年度より高くなった項目は13項目にとどまり、28項目は評価が下がった。

評価が特に高まった観点項目は、「研修成果の共有状況」であるがこの項目は以前より評価が低く、少し改善されたがさらに改善の必要がある項目である。逆に最も評価が低下した項目は生活指導の「指導方針の一貫性」である。この項目は評価の最も高かったものの一つであったが今回の結果を受けて指導方針の確認と徹底が必要と考える。さらに「ボランティア」「生徒会活動支援状況」環境教育の「実践的態度の育成」「健康・食に関する指導について」の各項目の低下が大きく、教科指導以外の指導面での取り組みも活発にする必要がある。コロナ禍において積極的にリモート授業を展開するなどの対策を実施し評価を高めた「ICT教材の活用」は高校1年生でchromebookの導入を行ったが評価を下げている。これはchromebookの活用が充分に行われていないと評価されている可能性があり、有効活用の工夫が必要と考える。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 2022年10月27日実施

(委員) 校長・副校長・教頭・PTA会長(欠席)・近隣地区自治会長・近隣地区社会福祉協議会役員(欠席)
梅花女子大学総務部長

【令和2・3年度実施の教員自己評価について】

- ・「地域や地域住民との交流ができています」の項目が低くなっているが、豊中駅前交差点で警察と高校生が合同で交通安全の呼びかけを行ったり、幼稚園のチアリーダーディンククラブが豊中市社会福祉協議会の敬老の集いにYouTubeで参加していたのを知っているので、この低い評価を不思議に感じた。→教員が地域交流の取り組みを知らないのではないか。教員に周知していきたい。また、コロナ禍において文化祭等の機会地域の方々をお招き出来ていない事も評価に関係している可能性があると思う。
- ・「財務関係」の評価が低いが会議等で説明はしないのか。→会議で説明をしているが、細かな数字や内訳まで説明できていない。法人とも協力して理解いただく機会を持ちたい。
- ・「カウンセリング体制」の評価が高いことは良いことと思う。→現在スクールカウンセラーが週5日来ている。生徒だけでなく保護者の利用も多く、しっかりと対応できていると考えている。
- ・危機管理として防犯カメラは設置しているのか。→正門をはじめ各所に防犯カメラを設置し24時間録画を行っている。また正門には守衛を24時間配置し不審者対応等を実施している。

【令和2・3年度実施の生徒評価について】

- ・指導の中で「建学の精神」や「スクールモットー」を考える機会が多い。という項目で評価が低くなっているが、キリスト教主義学校なので特に気になる。評価が高くなるようにして欲しい。
- ・「建学の精神」という言葉を生徒は理解できていない可能性もある。質問の表現をわかりやすく「梅花が大切にしている言葉」や「創立者の愛唱の聖句」と変えてみると良いのではないかと。
- ・ハラスメントを問うようなアンケートは実施していないのか。→いじめに関するアンケートは年1回以上必ず実施している。ハラスメントに関してのアンケートは検討していく。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参 観を推進する。 (2)新人教員育成制 度の導入を検討・ 実施 (3) 英語 4 技能の 修得と国際理解を 深める	(1)授業参観期間を設定し、レポート の提出を義務化することで授業 改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を 配置し、授業・生徒指導等でレポ ートを作成し育成をはかる。 新人教員を対象とした教員研修 を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機 会（外部講師での英会話・英検対 策講座）の継続。また、イングリッシュ ホリスパースの利用促進やイングリッシュ シヤワの継続。 外部アドバイザーと会話出来る 機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価） 教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交 換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の 値)を 75%以上にする。今年度もコロナ禍に より教員間の授業参観は実施できなかった。 (2)自己評価・教員研修「初任者等、経験の少 ない教員を学校全体でサポートする体制があ る。」の評価は微増であるが抜本的な改善に は至っていない。肯定的評価 70%以上をめざ す。 (3) English Communication Day をリベラルア ーツコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の 機会を増やした。また、英検 2 級以上取得者 を English Elite Member に認定しネイティブの 特別レッスンの受講を可能としたがコロナ感染 防止の観点から自粛期間が長期化した。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理 解、異文化交流など国際理解に対する教育活 動を取り入れている。」の肯定的評価を 80% 以上に保つ。	(1)2021 年度 43.7% 2022 年度前半 36.6% (×) 授業参観の回数を増やすこ とで充実を図る。 (2)2021 年度 22.9% 2022 年度前半 26.4% (×) 指導回数や計画的な研修・懇 談の導入など改善し、継続し て取り組む。 (3)2021 年度 75.1% 2022 年度前半 76.3% (△) イングリッシュホリスパースの活用法 の工夫など、英語に触れる機 会を増やす取り組みを継続 して実施する。
2. ICT 教 育の推 進	(1)ICT 機材を用い た授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング (AL)を取り入れた 授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に 情報収集・校外研修に参加する ・Wi-Fi 環境が整い iPad,chrome book を活用する授業展開や課 題設定を工夫する。 ・校内のメインサーバーを増強 し ICT 環境のさらなる充実を 図る。 (2)ICT 機材を活用しグループワーク やプレゼンテーションを実施し「主体的・ 対話的で深い学び」を実施する。	(1) コロナ禍において罹患者、濃厚接触者 に対して授業配信を実施した。 ・2020 年度 Wi-Fi を整備、中学全生徒に iPad を導入した。 ・2022 年度専任・常勤教諭にノートパソコン を貸与。高校 1 年生に chromebook を導 入した。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラ ーニングの視点に立つ学び)に向けた教育を行っ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1)2021 年 75.0% 2022 年度前半 65.5% (△) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。 (2) 2021 年 64.6% 2022 年度前半 50.9% (×) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。
3. 危機管 理の徹 底	(1)火災・防災訓練 の強化 (2)不審者への対応 マニュアルの改訂 (3)災害への対応マ ニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施 する。 (2)校務分掌の変更など整理し、 現行の対応マニュアルの見直しを実施 する。 マニュアルを教職員で共有化し対応で きるよう訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共 有化し対応できるよう研修・訓練 等を実施	(1)2021 年度コロナ禍の中 3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時 に対処する役割分担が明確にされている。」の 肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、 消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分 取られている。」の肯定的評価を 80%以上に 保つ。 (3)2019 より年 1 回のアフリカキナー対応のためエ ビベン使用講習およびてんかんの教員研修を 継続して実施する。救急救命講習を体育系ク ラブ員、教員対象に実施できたが、高校 1 年全 員にはコロナのため実施できなかった。 評価指標は上記(2)と同様	(1)2021 年度 65.9% 2022 年度前半 70.9% (×) 継続して取り組む (2)(3)2021 年度 79.2% 2022 年度前半 76.0% (△) 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管 理マニュアルとし、訓練や見直し を継続的に実施することで 生徒教職員の安全確保を万 全にしていく。

<p>4. カウンセ セリン グ強化</p>	<p>(1)カウンセとの連携強化 (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセと教員との懇談を定期的に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセを含め特別支援委員会を学期1回、定期開催したが、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有のため頻度を上げる。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置している。教室への登校を目標に保護者、カウンセとも連携し対応を強化する。 評価指標は 上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2) 2021年度 73.0% 2022年度前半 84.6% (○) 目標を達成できた。今後も特別支援委員会を継続して取り組む。 コロナ禍の影響もあり不登校ぎみの生徒が増加傾向にあるため、対応強化に継続して取り組む。</p>
<p>5.財 務状況 の共有 化</p>	<p>(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・コピー用紙の使用量減</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間の徹底を図る。また、職員室の19時自動消灯を継続する。 コロナ感染防止のため換気を重視したためエアコンの使用が増えた。 電子データの配信により会議のペーパーレス化を目指す。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2021年度 33.4% 2022年度前半 43.6% (×) 継続して取り組む。 (2)2021年度 27.2% 2022年度前半 37.0% (×) (1)(2)とも昨年より10%改善できたがまだ目標とはかけ離れている。継続して継続して重点項目とする。</p>